

はじめに	1
活力と潤いのあるまちをめざして	

戦前の繁栄と戦争による壊滅的被害	3-7
------------------	-----

大阪港とともに発展した港区
苦しい戦争中の生活と大阪市内最大の空襲被害
疎開で家族離ればなれに
壊滅的被害の中で迎えた終戦

自然災害との戦い	8
----------	---

大阪市の復興は港から	9-11
------------	------

・大阪港の修築
・土地区画整理事業
・高潮対策事業

土地区画整理記念事業の実施	12
---------------	----

コミュニティ豊かな
将来にわたって活力と潤いあるまちへ

地図で見る港区の変遷	13-14
------------	-------

区画整理前と区画整理後の比較

戦後70年 港区略年表	15
-------------	----

- ①大阪港のシンボル築港大栈橋:1930年頃(昭和初期) 大阪歴史博物館提供
②大阪築港大潮湯女海水浴場:1920年頃(大正期) 桧垣宏之様提供
③安治川内港付近:1954(昭和29)年 大阪歴史博物館提供
④下水道工事(盛土):1955年頃(昭和30年代) 大阪歴史博物館提供
⑤区画整理記念像「VICTORIA(勝利の女神)」:2015(平成27)年
⑥天保山公園:2015(平成27)年
⑦八幡屋公園:2015(平成27)年
⑧尻無川水門:2015(平成27)年
⑨天保山マーケットプレイス:2015(平成27)年

はじめに

活力と潤いのあるまちをめざして

港区長 田端 尚伸



平成27年は戦後70年。そして港区誕生から90周年の年です。この節目の年に「大阪港周辺と港区」の歴史を振り返るDVDとこの小冊子を、戦争・復興経験者をはじめ多くの区民の皆さんのご協力によりとりまとめることができました。厚くお礼申し上げます。

現在の港区の築港・天保山エリアは、江戸時代後期「天下の台所」大坂の玄関口として栄えました。そして、1903(明治36)年には築港大栈橋が完成して大型蒸気船で賑わい、大正から昭和にかけて日本屈指の近代港・大阪港を擁するまちとして大きく発展しました。

1925(大正14)年に誕生以降、大阪港を擁する港区は、第二次世界大戦までのほとんどの期間において、大阪市内で人口が一番の区でした。しかし、1945(昭和20)年の大阪大空襲では、大阪港を擁するがゆえに市内でも最も大きな被害を受け、さらにその直後の枕崎台風による高潮被害により浸水し、戦前最大で約36万人あった人口が約8,600人まで激減しました。

「大阪市の復興は港から」を合いことばとする戦後復興の中で、港区では1948(昭和23)年から1992(平成4)年まで、実に45年間もの年月を費やし、区域の約9割におよそ2メートルの盛土をするという、世界でも類のない大規模な土地区画整理事業が行われ、その結果、高潮の被害のない、平坦で街区のわかりやすい、道路が広く、公園も多い、住みやすいまちに生まれ変わりました。

そして戦後70年、区政90周年の節目となる年に、平成4年の事業完了後20年以上検討を続けてきた港区の土地区画整理を記念する事業の実施が決定しました。

この記念事業では、幅広い世代の活動と交流を促進し、更に豊かなコミュニティを醸成することで、将来にわたって港区のまちづくりに貢献する公共施設「(仮称)区画整理記念・交流会館」を整備するとともに、大阪みなと中央病院との共同事業により今後の地域医療と災害時医療の拠点機能の形成をめざします。「(仮)区画整理記念・交流会館」は2021(平成33)年度のオープンをめざし、今年度は区民の皆さんのご意見を踏まえて「基本構想」を取りまとめました。

波乱の歴史をたどる中で、港区は人々の「結びつき」や「支えあう気持ち」が強いという「まち」としての「強み」を育んできました。今後とも、区民の皆さんとこのまちの歩みを振り返りながら、「(仮)区画整理記念・交流会館」を起点として港区のコミュニティを更に活性化し、このまちの「強み」を活かして、将来にわたって活力と潤いのあるまちづくりをめざします。

平成28年 3月

